

2022年度 抗菌薬適正使用推進事業 成果報告書

2020年、2021年抗菌薬使用量および薬剤感受性調査について

高知県感染対策・サーベイランス研究会 抗菌薬使用量調査

対象抗菌薬: 注射用 カルバペネム系抗菌薬 (IPM/CS、PAPM/BP、MEPM、BIPM、DRPM)

注射用、経口用 フルオロキノロン系抗菌薬 (LVFX)

注射用 広域ペニシリン系抗菌薬 (P/T)

IPM/CS: イミペネム／シラスタチン、PAPM/BP: パニペネム／ベタミプロン、MEPM: メロペネム、
BIPM: ビアペネム、DRPM: ドリペネム、LVFX: レボフロキサシン、P/T: ピペラシリン／タゾバクタム

使用量評価法: $AUD = [AMU(g) / (DDD \times \text{入院患者延べ日数})] \times 100$

Antimicrobial use density: AUD、Antimicrobial usage: AMU、Defined daily dose: DDD

対象期間および対象施設:

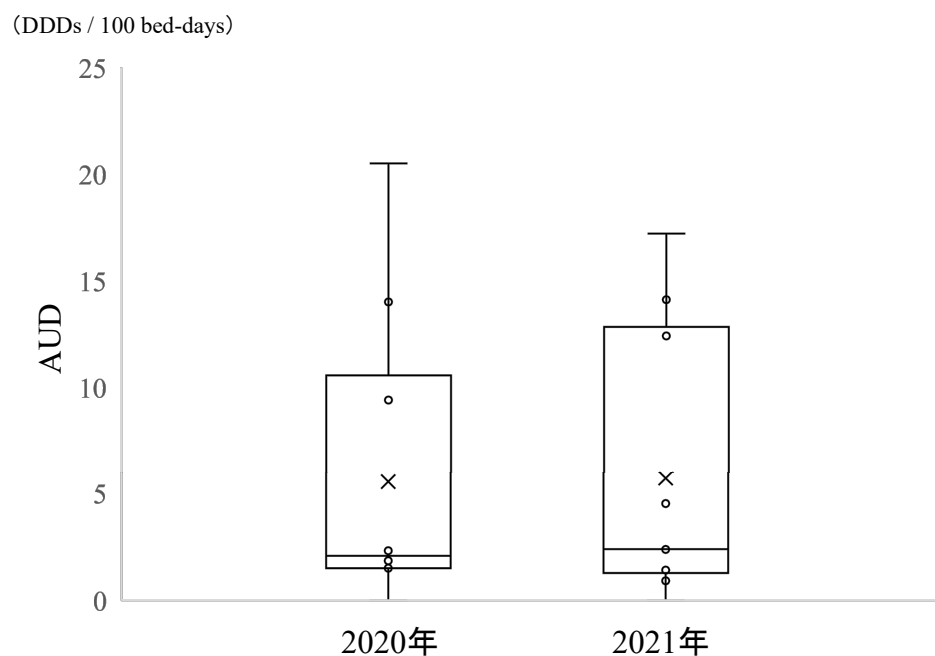
(第Ⅵ期) 2020年1月～2020年12月 中部地域2施設、西部地域7施設

(第Ⅶ期) 2021年1月～2021年12月 中部地域2施設、西部地域7施設



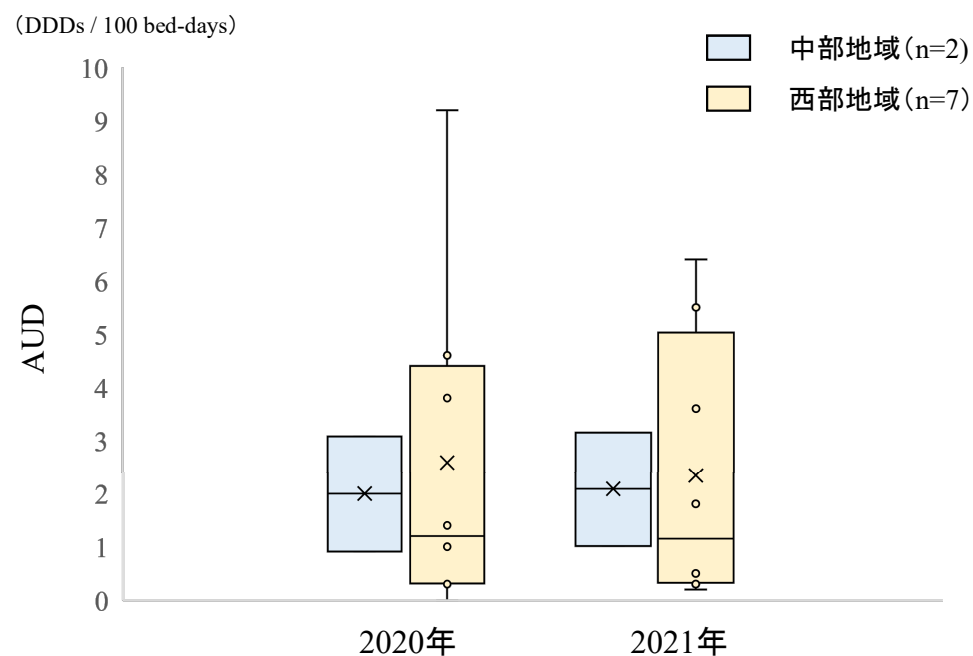
2020年、2021年 注射用カルバペネム系抗菌薬使用量

高知県全体



対象抗菌薬: IPM/CS、PAPM/BP、MEPM、BIPM、DRPM

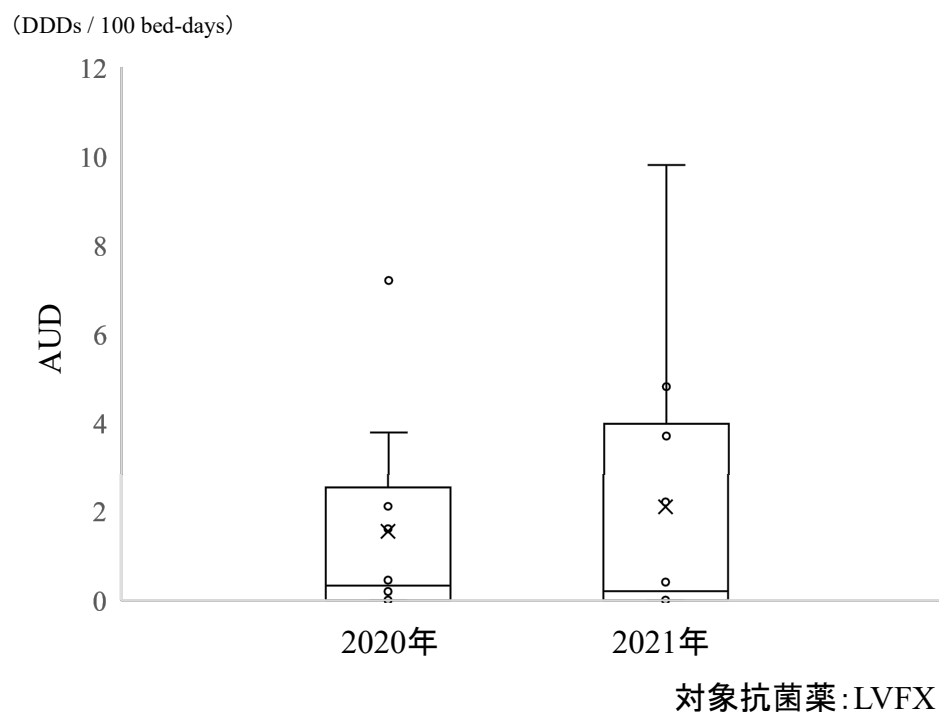
高知県地域別



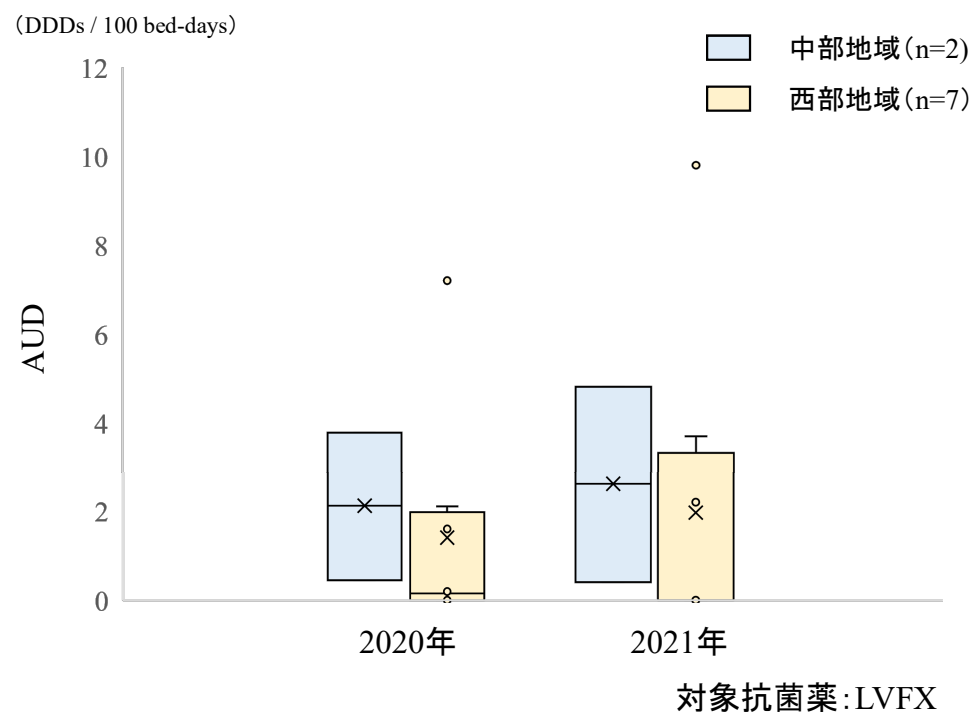
対象抗菌薬: IPM/CS、PAPM/BP、MEPM、BIPM、DRPM

2020年、2021年 注射用フルオロキノロン系抗菌薬使用量

高知県全体

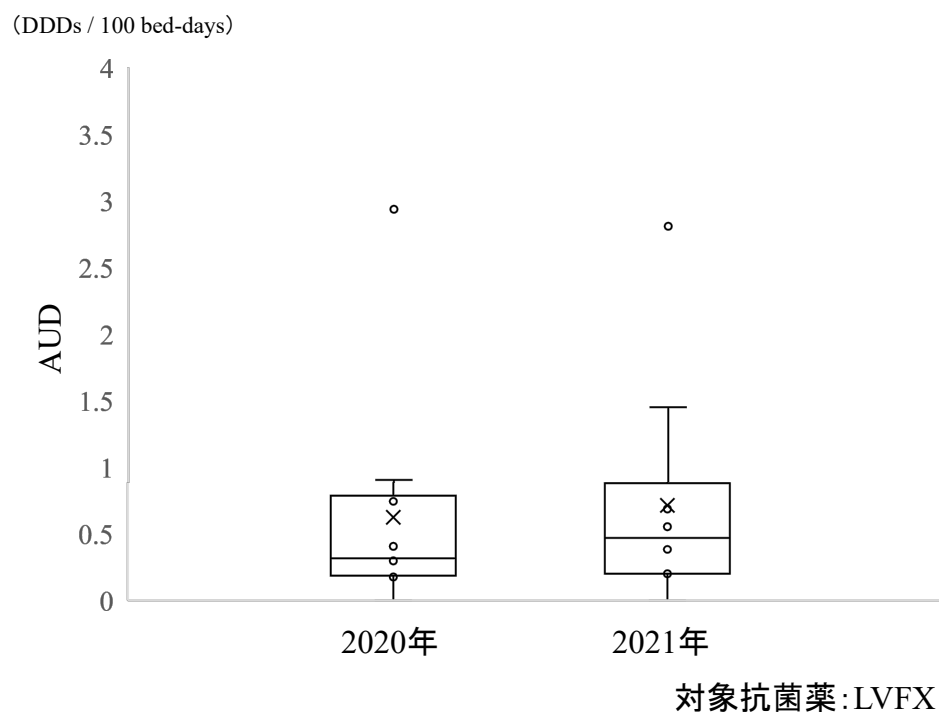


高知県地域別

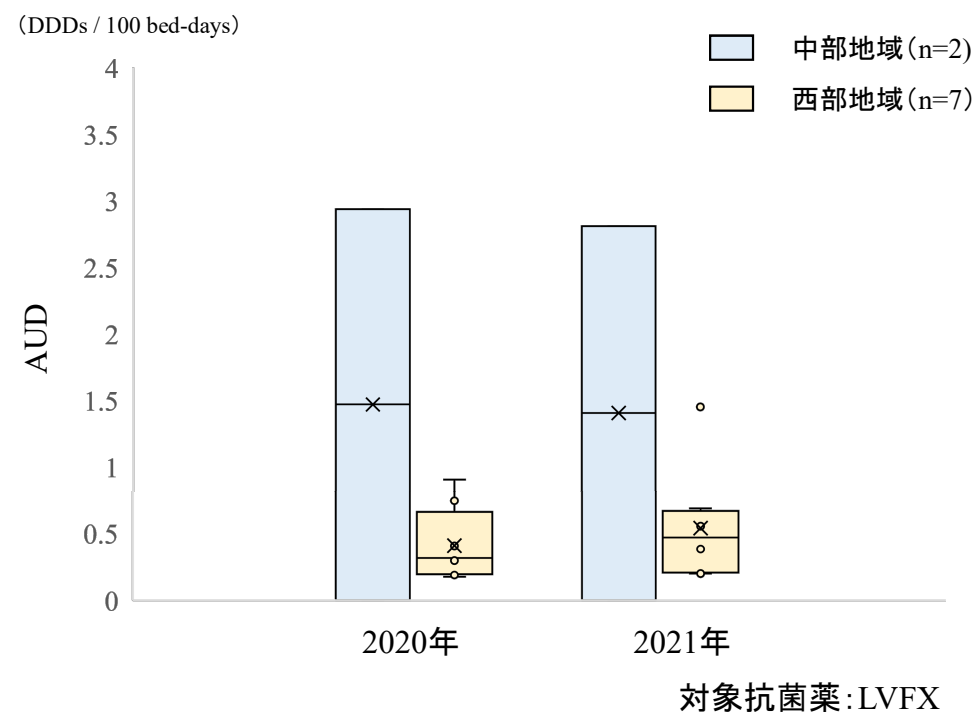


2020年、2021年 経口用フルオロキノロン系抗菌薬使用量

高知県全体

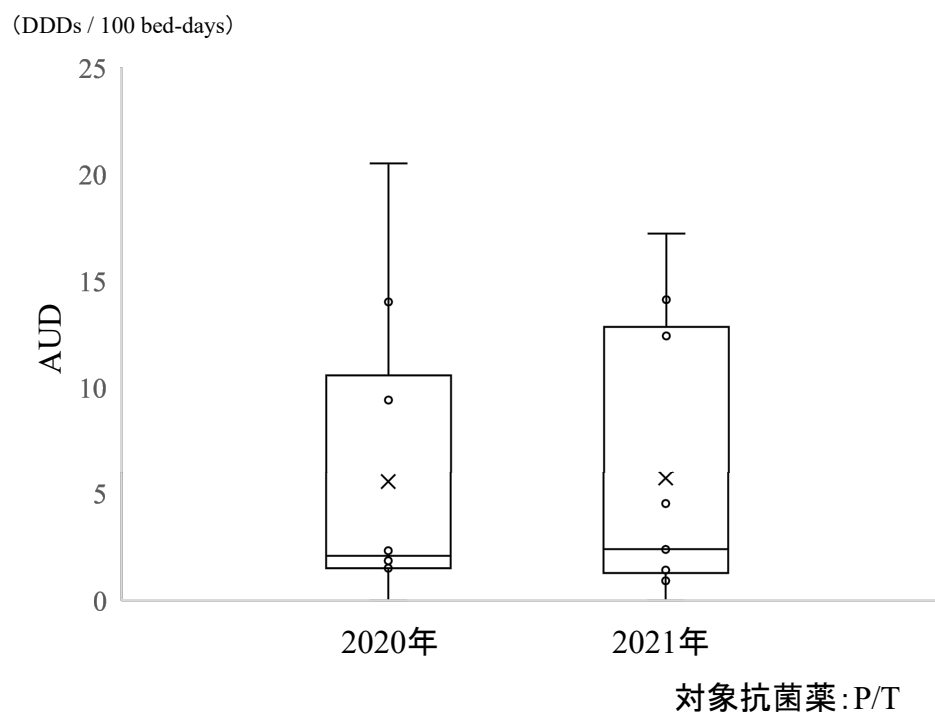


高知県地域別

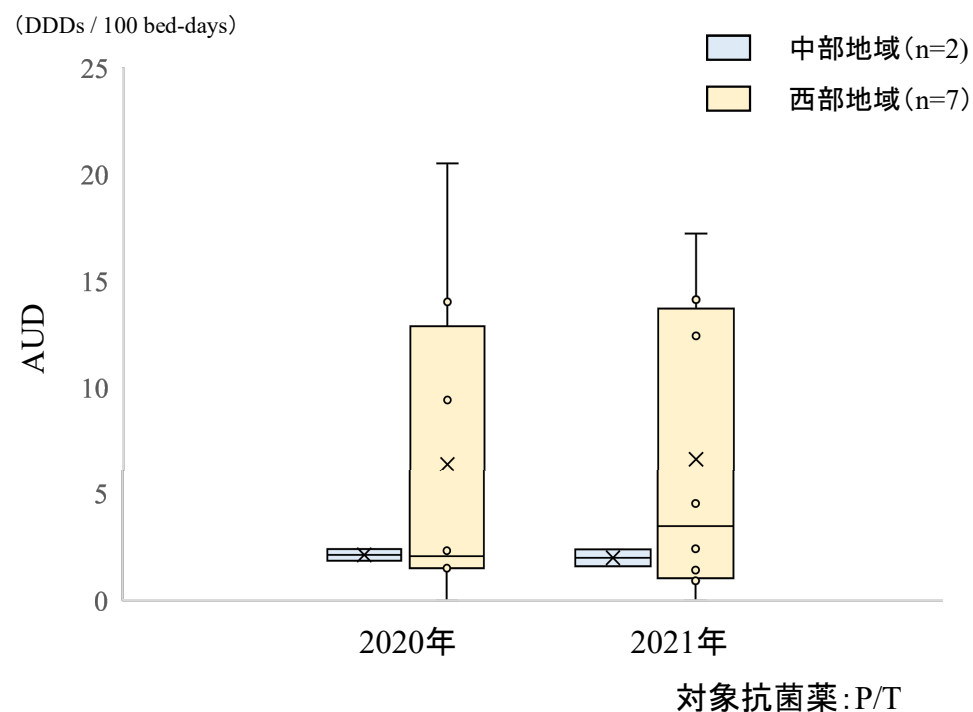


2020年、2021年 注射用広域ペニシリン系抗菌薬使用量

高知県全体



高知県地域別



まとめ

抗菌薬使用量の変動と特徴

■注射用カルバペネム系抗菌薬

高知県全体、地域別では、経時的に使用量は低下していた。
中部地域よりも西部地域で使用量は多い。

■注射用フルオロキノロン系抗菌薬

高知県全体、地域別では、経時的に使用量は増加していた。
西部地域よりも中部地域で使用量は多い。

■経口用フルオロキノロン系抗菌薬

高知県全体、地域別では、経時的に使用量は増加していた。
西部地域よりも中部地域で使用量は多い。

■注射用広域ペニシリン系抗菌薬

高知県全体、地域別では、経時的に使用量は増加していた。
中部地域よりも西部地域で使用量は多い。

高知県感染対策・サーベイランス研究会 薬剤感受性調査

対象菌種: 大腸菌、緑膿菌、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌(MSSA)

対象抗菌薬: (大腸菌) ABPC P/T CAZ CFPM CMZ IPM/CS MEPM LVFX

(緑膿菌) PIPC P/T CAZ CFPM IPM/CS

MEPM GM LVFX CPMX

(MSSA) PCG ABPC S/A CEZ GM ABK EM

CLDM MINO LVFX VCM TEIC LZD

ABPC: アンピシリン、P/T: ピペラシリン／タゾバクタム、CAZ: セフトジジム
CFPM: セフェピム、CMZ: セフメタゾール、IPM/CS: イミペネム／シラスタチン
MEPM: メロペネム、LVFX: レボフロキサシン、PIPC: ピペラシリン
GM: ゲンタマイシン、CPMX: シプロフロキサシン、PCG: ペニシリンG
A/S: アンピシリン／スルバクタム、CEZ: セファゾリン、ABK: アルベカシン
EM: エリスロマイシン、CLDM: クリンダマイシン、MINO: ミノマイシン
VCM: バンコマイシン、TEIC: テイコブラニン、LZD: リネゾリド

対象期間および対象施設:

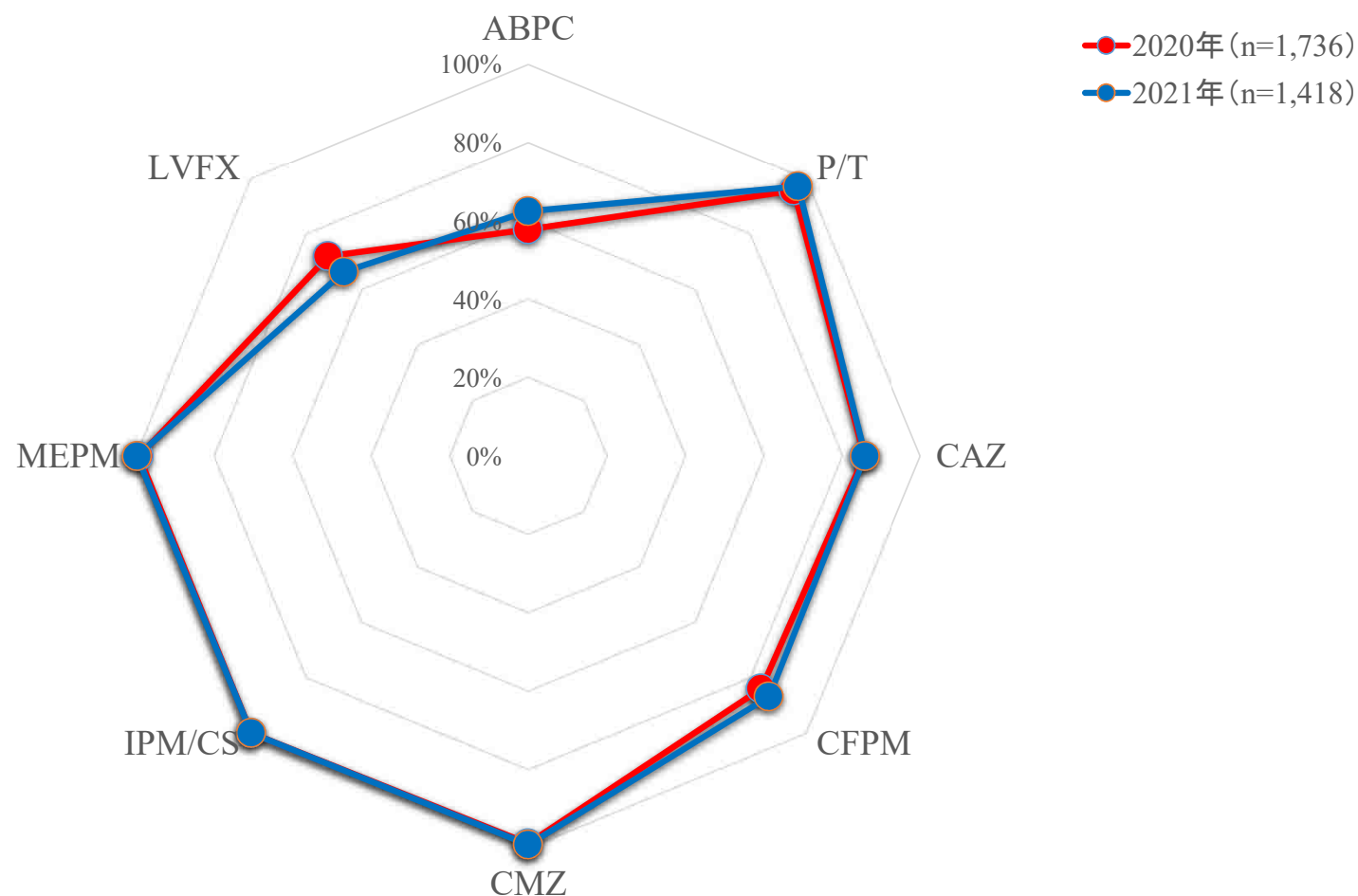
(第Ⅵ期) 2020年1月～2020年12月 中部地域3施設、西部地域7施設

(第Ⅶ期) 2021年1月～2021年12月 中部地域3施設、西部地域7施設



2020年、2021年 大腸菌 薬剤感受性結果

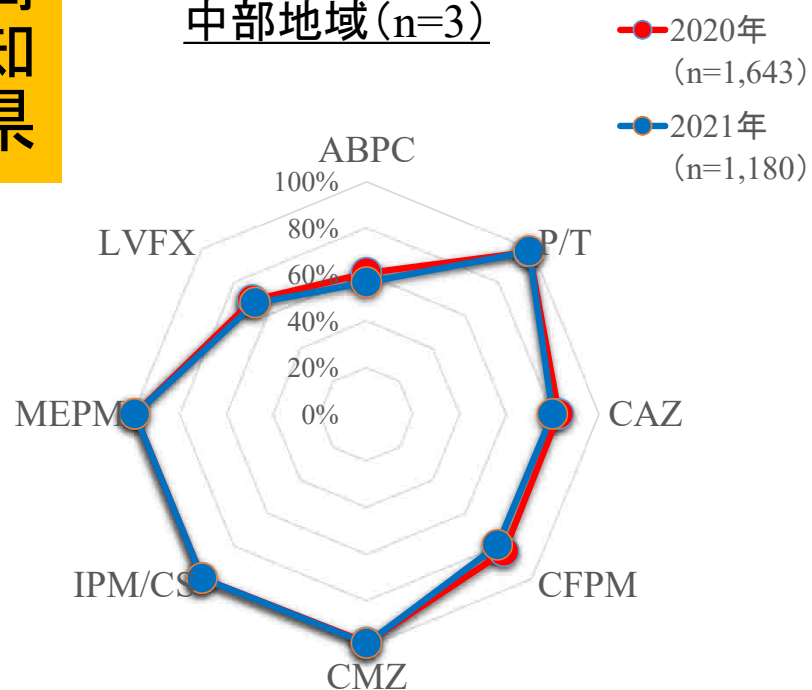
高知県
全体



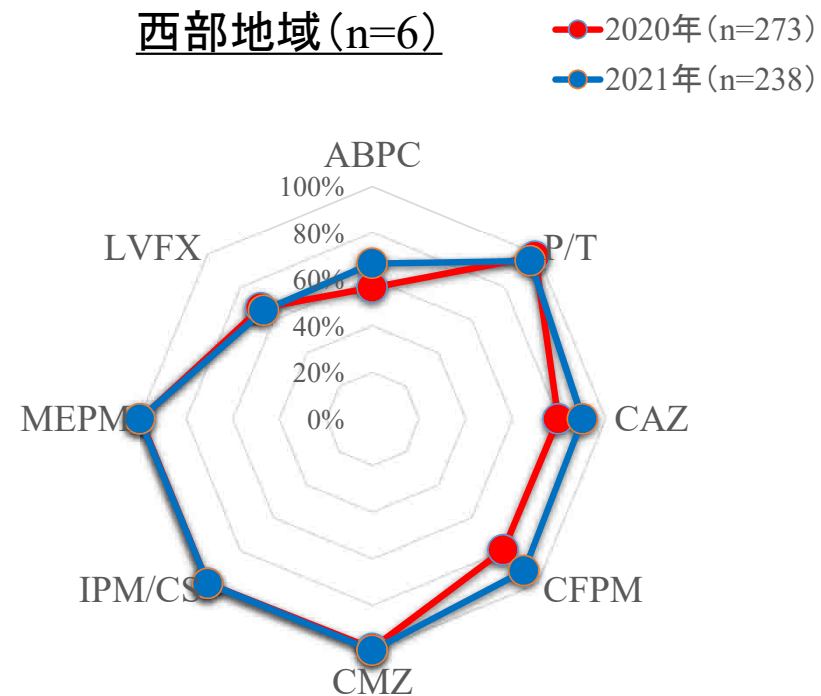
2020年、2021年 大腸菌 薬剤感受性結果

高知県
地域別

中部地域 (n=3)

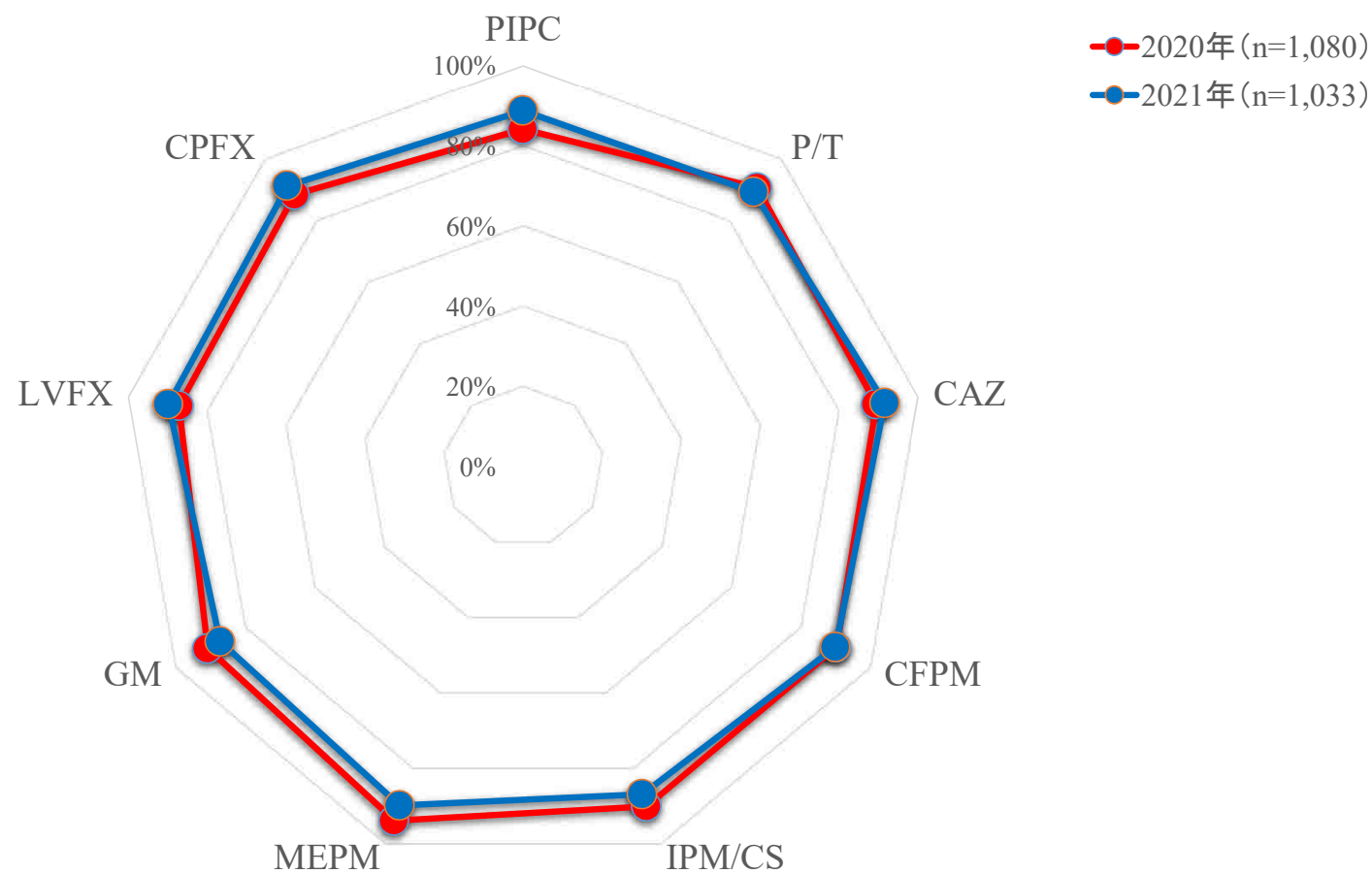


西部地域 (n=6)



2020年、2021年 緑膿菌 薬剤感受性結果

高知県
全体



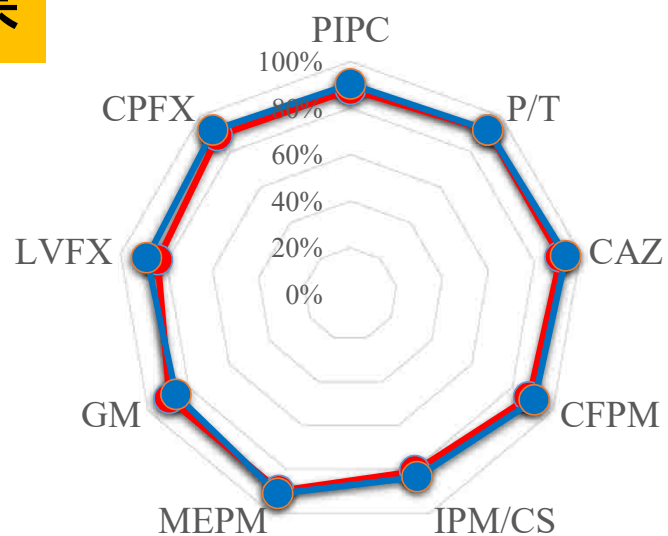
2020年、2021年 緑膿菌 薬剤感受性結果

高知県
地域別

中部地域 (n=3)

● 2020年 (n=905)

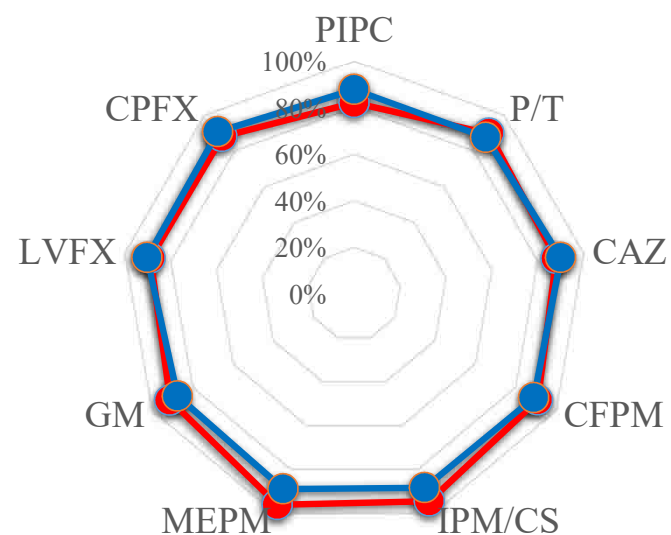
● 2021年 (n=846)



西部地域 (n=6)

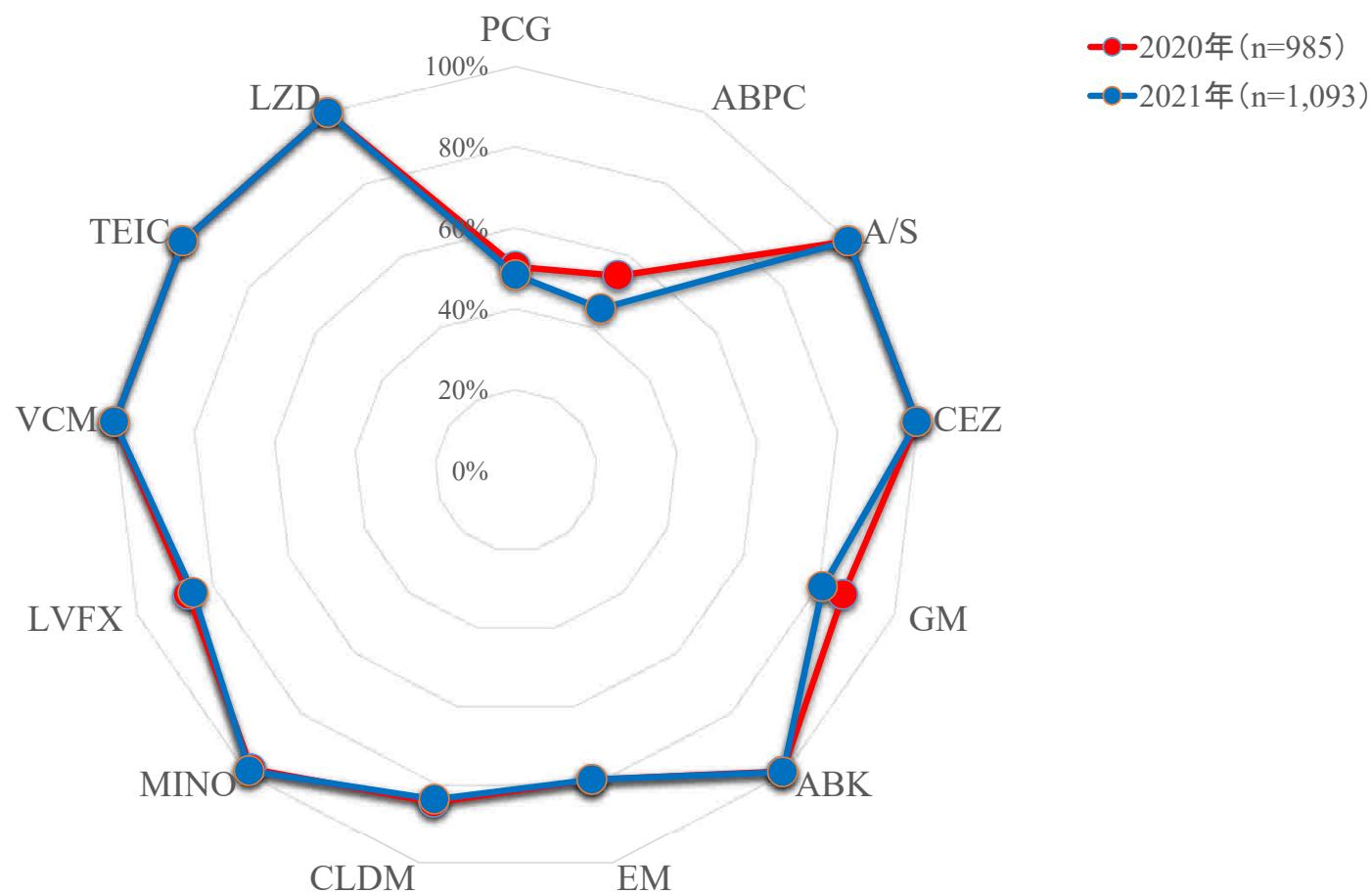
● 2020年 (n=175)

● 2021年 (n=187)



2020年、2021年 MSSA 薬剤感受性結果

高知県
全体

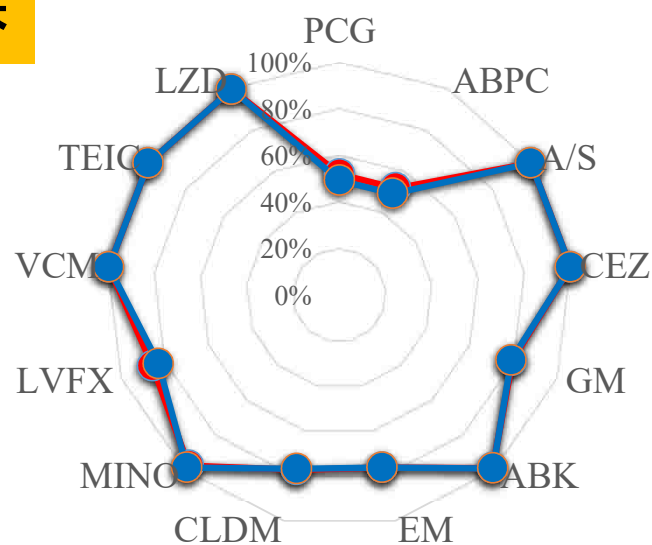


2020年、2021年 MSSA 薬剤感受性結果

高知県
地域別

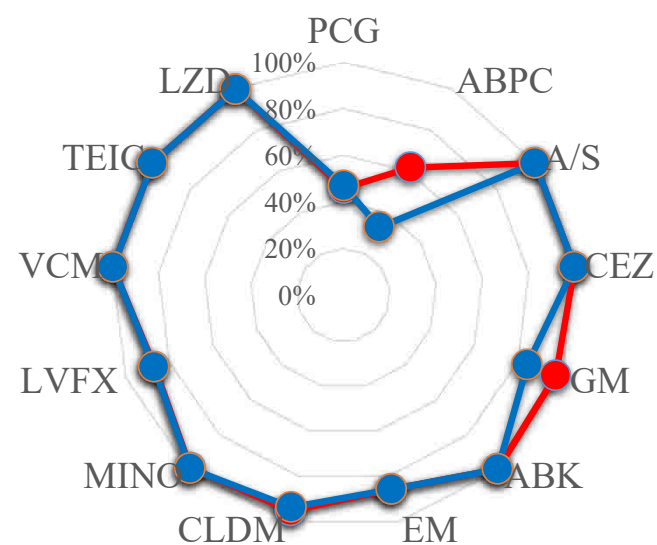
中部地域 (n=3)

● 2020年 (n=905)
● 2021年 (n=1,000)



西部地域 (n=3)

● 2020年 (n=80)
● 2021年 (n=93)



まとめ

各菌種における薬剤感受性率の変動

■大腸菌の薬剤感受性率

高知県全体では、LVFXの感性率が経時的に低下していた。

西部地域では、ABPC、CAZ、CFPMの感性率が経時的に改善していた。

■緑膿菌の薬剤感受性率

高知県全体では、PIPC、LVFX、CPFXの感性率が経時的に改善していた。

西部地域では、IPM、MEPM、GMの感性率が経時的に低下していた。

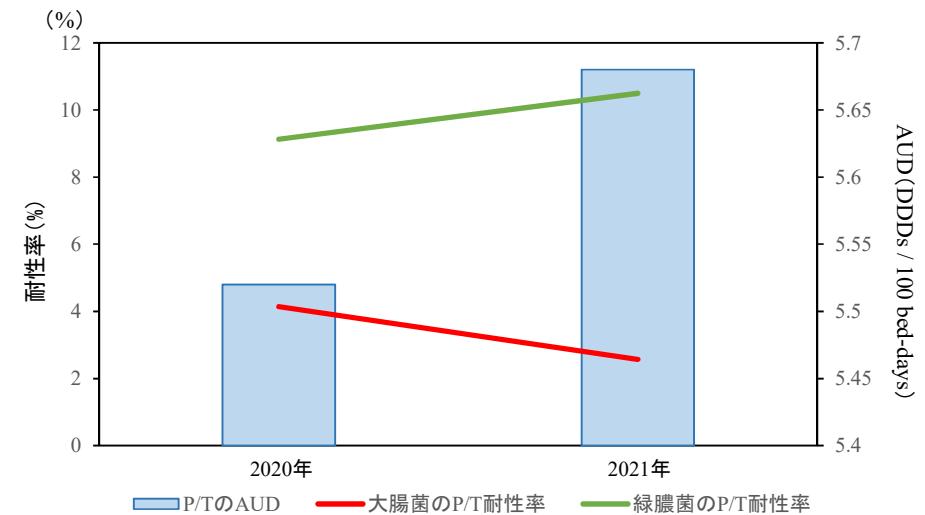
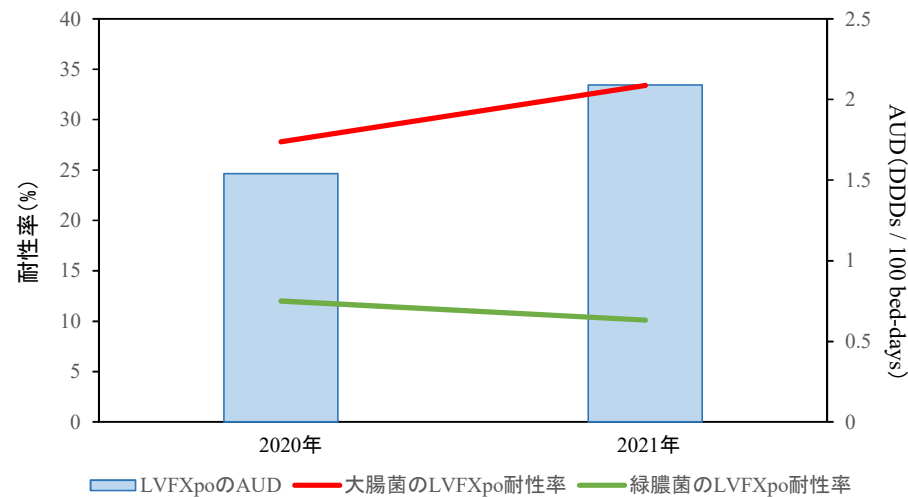
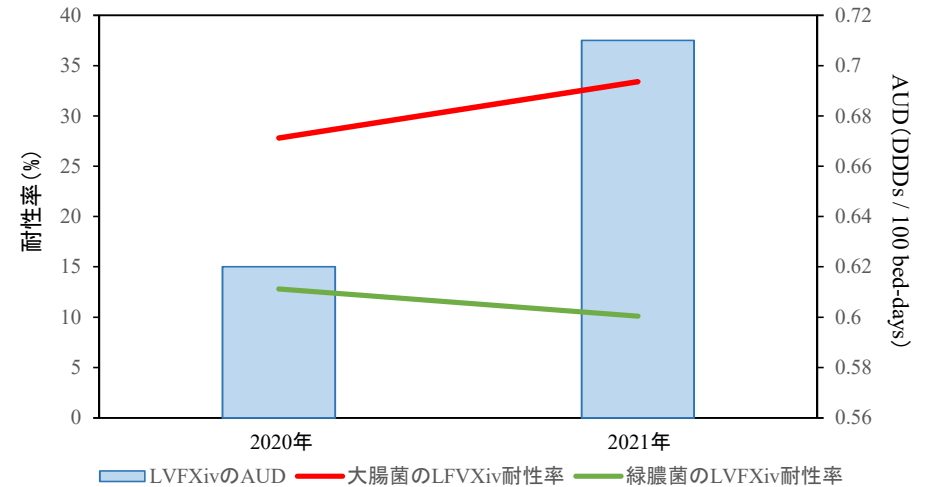
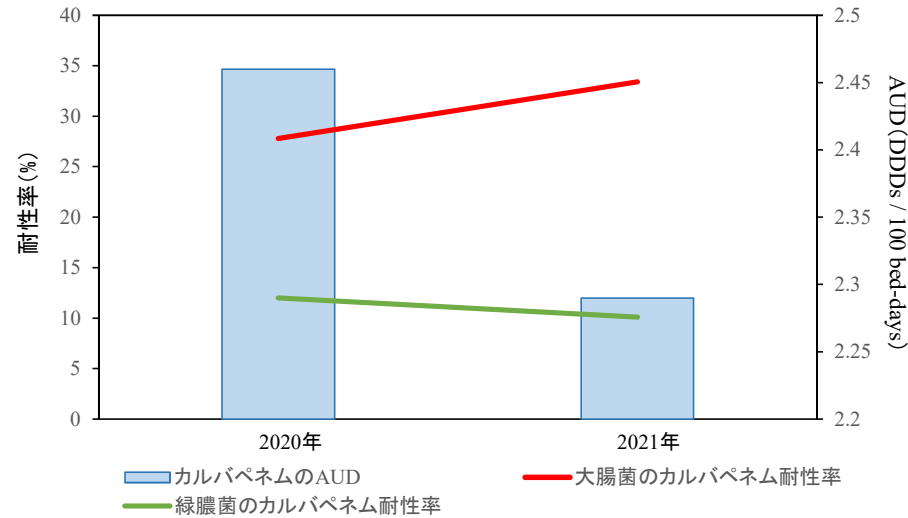
■MSSAの薬剤感受性率

高知県全体では、ABPC、GMの感性率が経時的に低下していた。

西部地域では、ABPC、GMの感性率が経時的に低下していた。

抗菌薬使用量と薬剤感受性の経時推移

高知県全体



まとめ

抗菌薬使用量と薬剤感受性の経時推移(高知県全体)

- 注射用カルバペネム系抗菌薬の使用量減少に伴い、緑膿菌の耐性率は低下していた。
- フルオロキノロン系抗菌薬(注射用、内服用)の使用量増加に伴い、大腸菌の耐性率は増加していた。一方で、緑膿菌の耐性率は低下していた。
- 注射用広域ペニシリン系抗菌薬の使用量増加に伴い、緑膿菌の耐性率は増加していた。一方で、大腸菌の耐性率は低下していた。